

提言 地域公共交通網の整備促進について

・提言の背景・趣旨

西川町の公共交通網から民間バス事業者が撤退して3年が過ぎようとしています。

人口減少、少子高齢化が急速に進む町にとって、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・通学・通勤・商業等の生活機能を確保し、子どもたちや高齢者(町民)が安心して暮らせるよう、地域公共交通網の整備を更に推し進める必要があります。

安全・安心な町民の足を確保するため、町立病院の患者の利便性と通学・通園者などの為に運営することになった地域公共交通網ですが、人口減少、高齢化社会の時代の変化と共に改善すべき問題が数多くあります。現状を把握し、さらなる町民の利便性向上を図るため提言します。

・提言内容

(1) 運行管理体制の見直し

- 1 路線バス事業、福祉バス事業は町民税務課、スクールバス運行事業は学校教育課で管理、委託し業務を遂行している。それぞれの役割は果たしていると思うが、効率性、経済性を考慮し、必要なバスの台数、更新時期、バスの小型化など一体的に管理・運営していくべきである。
- 2 路線バスの運行は、基幹路線(寒河江線、谷地線)と集落からの枝線との連絡がうまくいかず、待ち時間で苦慮している。小型バスの導入を図り、小回りが利く繋がる交通網の整備を促進し、ネットワーク構築を早急に検討すべきである。
- 3 現在、スクールバスの運行については、西部地区は混乗バスとなっているが、すべてのスクールバスが混乗バスとして運行出来ないか検討し、町民の利便性を図るべきである。

(2) 目的に合わせた交通手段の確保

- 1 朝、夕の便は通勤・通学を主体にした運行計画、日中は病院を起点にした運行計画を立てるなど、運行目的を明確にした運行体制を綿密に検討し、利用者の利便性を図るべきである。
- 2 地域区分で曜日等を決めた運行を行うなどして効率化を図り、高齢者の買い物対策や児童・生徒の図書館利用など交通弱者への対応を検討すべきである。
- 3 デマンド方式の運行について、利用者の少ない路線(運行)の廃止や運行する地区や効率的な運行体制を検討し、可能なことから実施に移すべきである。
- 4 スクールバスの運行は、集落ごとに路線を組んでいるが、児童・生徒の乗車人数を考慮し、隣接路線の統合等を図り効率化すべきである。

(3) 町立病院利用者の利便性確保

- 1 町立病院利用者の帰りのバスは、運行本数が少なく待ち時間が長くなり利便性に欠ける。待ち時間を考慮したきめ細かな運行体制を図るべきである。
- 2 待ち時間が長いことを考え、診察待合室とは別に、カフェ機能などを兼ね備えたサロンを設置し、コミュニケーションを図れる場所の検討をすべきである。
- 3 町立病院のバス停は軒下のベンチのみであり、高齢者が待つには大変である。病院内で待っていても乗車できるように、町営バス運転手が声掛けするなどの対応を図るべきである。

(4) 町民のニーズが反映される会議の開催

- 1 平成31年2月に実施した公共交通に関する調査アンケートは、対象者を絞ったもので全体像がつかまれている。全体的なアンケートも実施すべきである。
- 2 現在、年2回開催されている路線バス体系連絡会議は、バスの運行時間の検討が主で、路線変更、追加、廃止等は地域公共交通会議での協議となる。また、会議のメンバーも関係者のみであり、一般住民を加えた地域公共交通会議を開催し、地域のニーズに即した運行形態、サービス水準、運賃等について協議すべきである。地域公共交通会議は定期的な開催を望む。